

# 麦・大豆産地生産性向上計画

## 八女産地

(作成主体:八女地域水田農業推進協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

八女市(旧八女市)は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約5割を占める水田地域である。近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手組織への農地の集積を行っているが、構成員の高齢化や地力の低下が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需者と密接に連携し、実需者の要望に対応した品種への誘導を行っていくとともに、単収の安定を実現する。

現在、八女市(旧八女市)においては、水田フル活用ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種はるか二条は、全量が焼酎・押し麦用等として、県内の企業に販売されているが、実需からの要望に対して生産量が上回り減産を図る必要がある。一方で、シロガネコムギについては、県内外の製粉企業へと販売されているが、実需の要望が生産量に満たないことから、実需の要望に応えるため、5年間で約15haを「はるか二条」からシロガネコムギに段階的に切り替えを図っていく必要がある。

・大豆については、生産の9割を占める品種フクユタカは、JA全農ふくれんを通じて主に全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、気象条件の不安定さや地力の低下により安定供給が達成できておらず、排水対策や土づくりの推進により収量の増加が喫緊の課題となっている。

### (2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については横ばい、大豆については減少傾向で推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や有機資材、土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進む中、高齢化や適期作業の逸失等により単収低下を引き起こしている。

よって、効率的な技術の導入や積極的な土づくり資材の投入、作付の団地化等の推進が喫緊の課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	225	201	214	233	335	271	524	673	580
大麦	はるか二条	65	68	70	215	327	420	140	222	294
作物計		290	269	284	229	333	308	664	896	874

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	フクユタカ	85	76	77	180	86	145	153	65	112
作物計		85	76	77	180	86	145	153	65	112

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	22	9.8%	20	10.0%	21	9.8%	
大麦	はるか二条	7	10.8%	7	10.3%	7	10.0%	
作物計		29	10.0%	27	10.0%	28	9.9%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	6	7.1%	6	7.9%	6	7.7%	
作物計		6	7.1%	6	7.9%	6	7.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

八女地区において、4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地(田)を同地区の作付面積で除した値を団地化率として算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。